

全 仏



No. 362

1990. 10



マヤ堂修復事業の起工式で
法要の導師を勤める春見会長



財団
法人

全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

マヤ堂修復事業合意文書

カトマンズで調印式



工事着工へ

去る九月四日、カトマンズのホテル・ヒマラヤで、本会の白川良純理事長とルンビニー開発トラスト（LDT）のシルワール事務局長との間で、「マヤ堂修復事業合意文書」の調印が行われた。

現地時間午後七時から行われたこの調印式には、国連技術顧問の久保総一氏が立ち合い人として出席、署名に加わった。

調印の後、署名した三氏がそれぞれ挨拶を行い、この歴史的な調印式は終了した。

引きつづいて七時三〇分から、同ホテルで記念祝賀会が開催された。春見会長祝辞の後、出席者（三十五人）によるなごやかな懇談がつづいた。

この日の調印により、一九八一年にスタートをきった、本会のルンビニー園復興事業は、マヤ堂修復工事への着工という形で、いよいよ具体的な動きを、開始することになった。

本会としては、このたびの工事着工を機に、残された課題である勧募活動を、より積極的に推進していくことが、重要となろう。

〔写真は、合意文書に調印する白川理事長、中央がシルワールLDT事務局長、右端が国連の久保氏〕

IN WITNESS WHEREOF, the parties hereto have caused this Agreement to be duly executed and delivered as of the day and year first above written by their duly authorized representatives.

LUMBINI DEVELOPMENT TRUST

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

Silwal

Ryojun Shirakawa

Y. K. Silwal
Member Secretary
Lumbini Development Trust

Ryojun Shirakawa
Chairman-Directors Board

S. K. Ito
Engineer Adviser

マヤ堂修復事業合意文書の署名(原文)
写真はホテル・ヒマラヤで調印式を終えた
参加者全員による記念撮影



にぎにぎしく起工式

千人が熱烈歓迎

調印式の翌五日、午後十一時からルンビニ

一園において、マヤ堂修復事業の起工式が挙

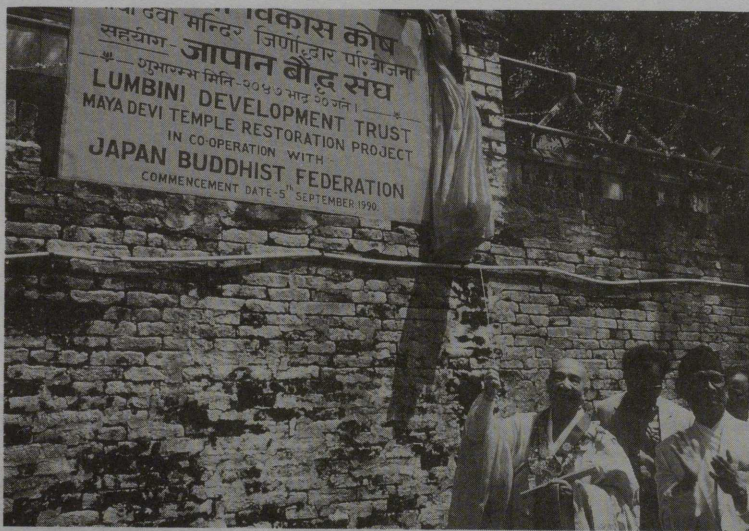
行された。

この日早朝、カトマンズを二機の専用機で出発した一行(六十人)は、ほぼ予定通りバイラワ空港へ到着。用意された車とバスに分乗してルンビニーへ向かった。

快晴のルンビニーには、すでに約千人の関係者が集まっており、一行は、熱烈な歓迎の中を、マヤ堂へ。



当日のマヤ堂遠景

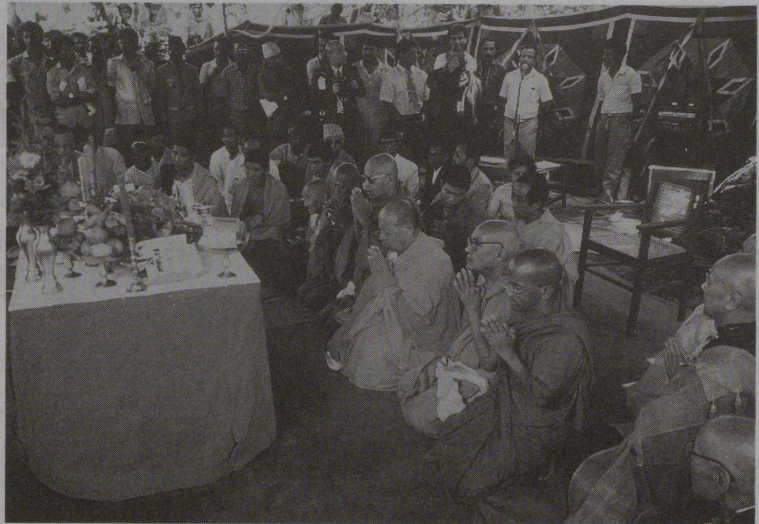


除幕式の春見会長



記念植樹する白川理事長

ネパール側の法要



起工式は、マヤ堂修復工事の内容を明記した掲示板の除幕で開始された。除幕は春見会長、白川理事長、シルワール事務局長、ネパール政府のサキヤ公共事業・交通大臣、ライマジ教育・文化大臣の五人でとり行われた。つづく法要は、最初に春見会長の御導師で、日本からの参加者により、厳粛に執り行われた。ひきつづき、ネパール側の法要が、スマ

挨拶する川井委員長



ンガラ・ネパール仏教会事務局長の御導師で、執行された。法要終了後、関係者による挨拶・祝辞が述べられた。最初に、シルワール事務局長が歓迎の辞とルンビニー園復興計画の説明を行った。その後、サキヤ大臣、川井ルンビニー委員長、ライマジ大臣、井桁ルンビニー委員長とつづいた。

千人の人でうまるるテント



昼食は、現地の慣例に従い、起工式の参加者全員へ施食が行われた。最後に、ルンビニー園の園内に二本のマンゴの木が、春見会長と白川理事長の手で記念植樹され、起工式は全ての日程を終了した。その後、参加者全員によるルンビニー園全体の視察が行われ、午後二時、一行は専用機で再びカトマンズへ向かった。

盛大に祝賀会

九月五日午後七時から、カトマンズのホテ
ル・ヒマラヤで、ルンビニー園マヤ堂修復事

業起工式記念祝賀会が開催された。

最初に、春見会長が歓迎の辞を述べ、つづ

いて、ネパール仏教会を代表してスマンガラ
事務局長が祝辞を、このたびの訪問団を代表
して、佐藤光春日蓮宗宗務副総長が挨拶を行
った。白川理事長が乾杯を発声し、パーティ
ーがスタート。

マヤ堂修復の起工を祝うこの会へは、ネパ



東南から見たマヤ堂（九月五日現在）



北側から見たマヤ堂（九月五日現在）



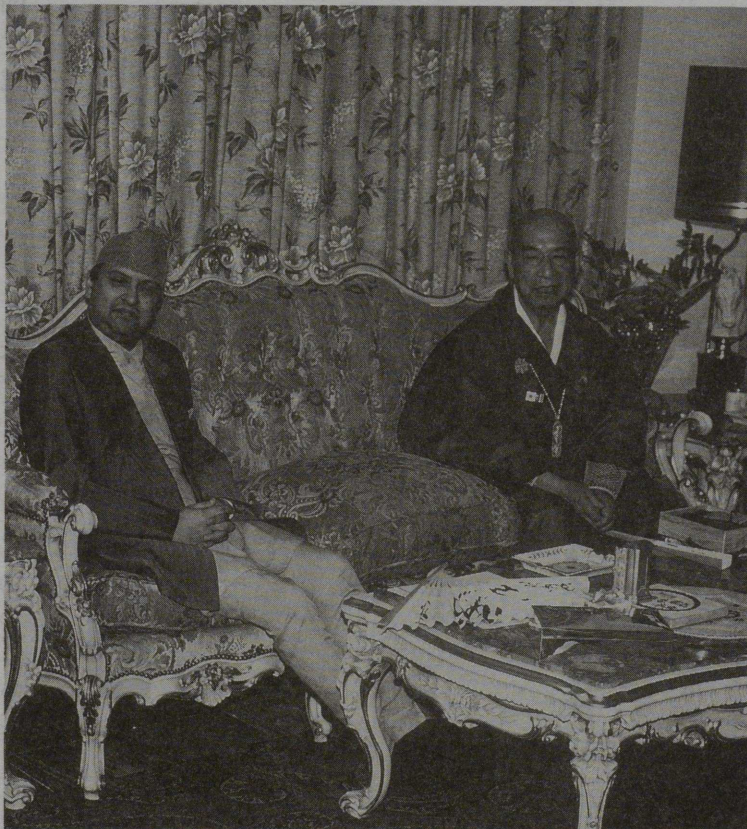
ール政府も強い関心を寄せ、サキヤ、ライマジの両大臣の他、シュレスタ厚生大臣、カナール農林大臣、プラダン商工業大臣、ニデイー般行政大臣、ウパディア内務・通信大臣という、七人の現職閣僚が出席した。

また、在ネパールインド大使、日本大使館及び在ネパール日本人会の関係者等、二百人

を超える出席者で、会場は熱気にあふれていた。

ギヤネンドラ氏訪問

九月六日の朝、訪問団の一行は、在ネパール日本大使館へ有地大使を表敬訪問し、この



まもなく除去される菩薩樹の根（上段）
ギヤネンドラ殿下と懇談する春見会長（下段）

たびの調印、起工式の概要を報告した。つづいて午前十時には、ルンビニー開発トラスト委員長のギヤネンドラ殿下を王宮近くの私邸へ訪問した。ギヤネンドラ委員長からは、一行を歓迎する言葉と共に、日本の復興事業に対し、できる限り協力したいという意向が表明され、友好的な懇談がつづいた。

サンヤ会長と懇談

このたびのネパール訪問団一行は、九月四日カトマンズを訪れる前に、バンコクでWFB会長のサンヤ氏を表敬訪問し懇談すると共に、去る七月に亡くなったブーン前WFB会長への弔意を伝えた。

(写真は、タイ王宮で一行を迎えたサンヤ



氏に対し、ブーン前会長への弔意を述べる野口善雄理事)

〈ネパール訪問団員一覽〉

- 春見 文勝 (本会会長、臨済宗妙心寺派管長)
- 白川 良純 (本会理事長)
- 川井 匡俊 (ルンビニー委員会委員長)
- 木越 樹 (ルンビニー委員会副委員長)
- 馬場 宗信 (ルンビニー委員会委員)
- 井桁 雄弘 (ルンビニー委員会委員)
- 野口 善雄 (本会理事)
- 佐藤 光春 (日蓮宗宗務副総長)
- 松山 英照 (臨済宗妙心寺派)
- 人見 宗忠 (臨済宗妙心寺派)
- 平出 价弘 (臨済宗妙心寺派)
- 上坂 悟 (考古学者)
- 園村 維敏 (考古学者)
- 稲葉 智彦 (共同通信社記者)
- ダン・ファアバー (写真家)
- 川島 宏之 (本会総務部長)
- 久米原恒久 (本会国際文化部長)
- 剛山 浩義 (本会財務部長)
- 齋藤 明聖 (本会同和推進部長)
- 木内 隆志 (本会国際文化部次長)
- 西岡 知圓 (本会総務部次長)
- 神代 紹文 (本会財務部次長)

〈おこわり〉

○本号に掲載いたしました写真は、アメリカ

人写真家、ダン・ファアバー氏撮影によるものです。

○本号は、ルンビニー特集号といたしました関係で、広告は休載させていただきました。

哀 悼

- 嶺藤 亮 (元全仏常務理事)
- 八月十五日、七十五歳で遷化
- 元真宗大谷派宗務総長
- 水本 日穂
- 九月一日、七十三歳で遷化
- 法華宗陣門流管長
- 小峰 順誉 (元全仏副会長)
- 九月二十四日、九十歳で遷化
- 前真言宗智山派管長

三三 事務局録事 三三

一九月一

- 一日 12・6 宗教者連絡会出席
- 十一日 第34回全日本仏教徒会議大阪大会
- 十三日 日宗連税制特別委員会
- 十四日 局内会議
- 十七日 税務委員会
- 同日 同和委員会・研究会
- 十八日 本願寺派全戦没者追悼法要参列
- 二十七日 信教の自由に関する委員会
- 二十八日 局内会議

一九九〇年一〇月一日発行
一〇月号 第三六二号

発行人 石上智康 発行所 財団法人 全日本仏教会

〒一〇五 東京都港区芝公園四一七一四
電話 〇三(四三七)九二七五